

# 宗岡中だより



6月号 令和元年5月31日(金)  
志木市上宗岡1-8-1 TEL 048-471-2241

## 「雨上がり 虫を啄む<sup>ついで</sup> 四十雀<sup>しじゅうから</sup>」

校長 佐藤哲浩

21日は寒冷前線の通過に伴い、太平洋側を中心に広範囲で大雨となりました。一時、さいたま市には大雨警報・洪水警報が発令されましたが、午後になると雨も止み、時折日が差すこともありました。草刈りが終わった新河岸川の土手には、雨上がりを待っていたかのように四十雀が集まり虫を啄んでいます。雑草が生い茂っていると上空から虫を見つけることは難しいですが、草刈りが終わった後は、鳥たちにとって虫を見つけるのは容易で格好の餌場になるのでしょう。



話は変わって、今朝、朝日新聞を読んでいると次の記事に目が留まりました。那覇市の高校生が市内で航空券代をなくし、途方に暮れていたとき、連絡先も聞かずに現金6万円を渡してくれたのは、見ず知らずの男性だった。後日、「お金を返してお礼が言いたい」と新聞記事で呼びかけると、埼玉県男性と判明。高校生は沖縄工業高校2年の崎元颯馬さん、男性は埼玉県の医師(イムス三芳総合病院、脳神経外科医)、猪野屋博さん、那覇市で寮生活を送る崎元さんは4月24日の朝、伯父の葬儀で与那国島に向かっていた。ところが那覇空港駅で財布をなくしたことに気づいた。仕事で沖縄に滞在していた猪野屋さんは那覇空港駅から乗車。乗客が下りた車内の座席で頭を抱える崎元さんに気づき声をかけた。財布をなくし、飛行機の時間が迫っていると聞いた猪野屋さんは「いくら？」と尋ね、崎元さんは「6万円」と財布に入っていた額を答えた。発車ベルが鳴ったため、6万円を手渡して先を急がせた。連絡先や名前は確認しなかった。

崎元さんは伯父の葬儀に参列後、沖縄の新聞社に連絡して、「お礼がしたい」という顔写真付きの記事を掲載してもらった。いきさつを聞いていた同僚がネット上でこの記事に気づき、猪野屋さんに伝えた。21日、沖縄工業高校を訪問した猪野屋さんを、崎元さんが出迎えた。なくした財布は別の駅で保管され、6万円は手元に戻ってきた。崎元さんはお金を返し、「直接お礼が言えてほっとしています。自分も困っている人に声をかけられるような人になりたい」と語った。猪野屋さんは6万円を渡した経緯を同僚に話すと「騙されたんだよ」と言われたという。「彼が探しているというニュースを見て、涙が出るほど嬉しかった」と振り返り再会を喜んだ。

私がこの局面におかれていたら、同様の対応ができたでしょうか。毎日のように新聞で振り込み詐欺やカード窃盗の事件を目にして、人を疑うことが先立つ社会で、猪野屋さんの人柄に心が暖められた感じがします。